

まえがき

沖縄は、わが国の中でも特有の亜熱帯・海洋性気候に属していることから年間を通して寒暖の差が小さく、また周囲の海は珊瑚礁と白い砂浜で形成されていることで、色華やかに彩られた花木や美しい海などの自然環境により、質の高い観光地となっています。

本土復帰後の復興においても、このような地域特性を活かして都市緑化が積極的に推進されており、平成 17 年度における道路緑化率（緑化済道路延長／道路延長）では全国で最も高い 48.8%※）に達するなど、みどり豊かなまちづくりが行われています。

一方で、沖縄は接近や上陸する台風の数が本土に比べて多く、またその勢力も強いことから、台風が通過する度に倒木などによる樹木被害が数多く発生して問題となっています。さらに、都市緑化樹木における被害では、樹木自体の衰退を招くだけでなく、倒木などにより周辺建物の破損、道路を遮断することによる交通障害や人的被害等を引き起こす可能性があります。

そのため、都市緑化樹木においては台風被害による倒木等の発生を防ぐことが、みどり豊かな沖縄の都市環境を維持する上で重要な要素となっています。

このような状況を踏まえ、本手引きは、沖縄における倒木による被害を軽減させることを目的として、倒木の実態解明や根系の伸長特性等を把握した上で、有効となる台風被害対策についてとりまとめたものです。また、本手引きは沖縄の樹木と植栽環境からの解説となっていますが、基本的な台風被害対策については地域を選ばず全国的に活用することができますので、参考にして頂ければと思います。

本資料は、「沖縄における都市緑化樹木の台風被害対策の手引き」に加え、台風被害の実態調査結果からなる「台風被害対策に関する調査報告書」、都市緑化樹木 42 種の根系調査結果から作成した「沖縄都市緑化樹木の根系図」で構成しています。これらが、沖縄における緑化技術を向上するための基礎資料として活用され、色華やかでいきいきとした樹木による沖縄らしさの継承に寄与できることを期待します。

平成 23 年 1 月

国土交通省 国土技術政策総合研究所 環境研究部 緑化生態研究室

室 長 松江 正彦

※）国土技術政策総合研究所資料第 506 号・わが国の街路樹Ⅵ、国土交通省国土技術政策総合研究所、2009